

サステナビリティの取り組み 進捗報告

2021年11月8日
株式会社ユニテッドアローズ

Copyright 2021 UNITED ARROWS LTD. All Rights Reserved

2022年3月期グループ経営方針

持続的成長と未来に向けた大改革 ～新時代のお客様大満足へ～

営業利益生産性計画(一人あたり営業利益計画)の必達

連結売上総利益計画 50.7%の必達

持続的成長を支えるベース戦略(サステナビリティ、DX)

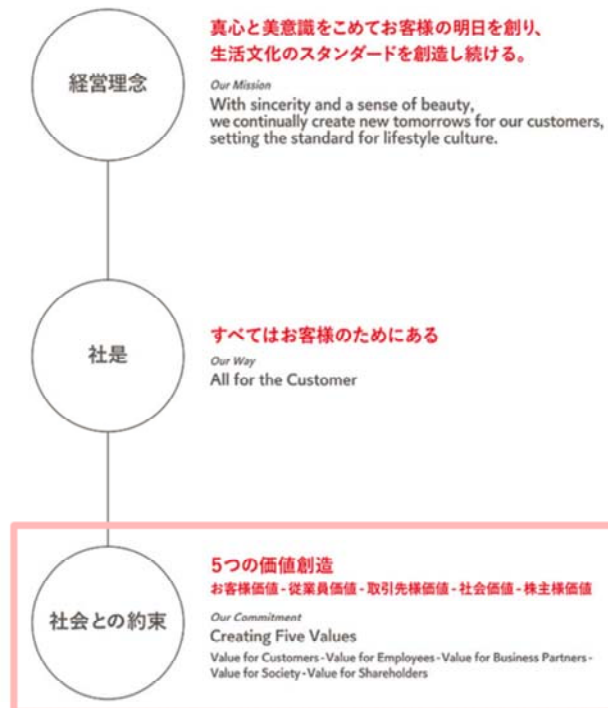
2

今年度当社は、中期経営計画の途中年度にあたり、中期経営計画の各項目に沿った取り組みを進めている。

今期のグループ経営方針は「持続的成長と未来に向けた大改革 ～新時代のお客様大満足へ～」。コロナ禍の影響や連結体制の変更で売上高の回復には時間を要するものの、中期最終年度に向けて当社グループを収益性の高い体質に切り替える期と位置づけ、各種取り組みを実施している。当社グループの持続的成長に向けた施策と未来に向けた改革を進め、新しい時代のお客様満足を追求する。

中期経営計画の重点取組の「収益構造を抜本的に見直す」については営業利益生産性計画を、「稼ぐ力を取り戻す」については連結売上総利益計画 50.7%をそれぞれ必達目標としており、同時に、当社グループの持続的成長を支えるための必須項目としてサステナビリティ、DXの取り組みも進めている。

ユニテッドアローズの理念体系



3











当社は経営理念「真心と美意識をこめてお客様の明日を創り、生活文化のスタンダードを創造し続ける。」に掲げる通り、真心と美意識をこめた「ヒト・モノ・ウツワ」を通じて、社会に豊かな生活、上質な生活を提供し続けることを創業来、行ってきた。

社是「すべてはお客様のためにある」の基本姿勢のもと、お取引先様をはじめとするステークホルダーの皆さまの価値を創造し、高めていくことを約束している。そもそも、当社におけるサステナビリティ推進の基盤は、社会との約束である、この5つの価値創造の追求であると捉えている。

サステナビリティ推進の指針(2020年4月制定)

ステートメント

私たちは「生活文化のスタンダードの創造」を目指し、5つの価値創造を通じて、持続可能な社会と環境の実現に向け主体的に行動し続けます。私たちは、それを積み重ねることで世界を豊かにし輝かせることができると信じています。

テーマ		マテリアリティ	目指すSDGs
1	サプライチェーン 責任ある商品調達とサプライチェーンの構築	商品調達のトレーサビリティ管理 サプライチェーンにおける人権と労働環境の尊重 環境配慮素材の利用推進 生物多様性・動物福祉に配慮した原材料調達 低炭素化の推進 省エネルギー・再生可能エネルギー利用の推進	    
2	資源 廃棄物削減と循環型モデルの実現	事業活動による廃棄物の削減 不要になった商品の回収・リユース・リサイクル推進	
3	コミュニティ 地域社会の発展をめざした活動の継続	地域社会・コミュニティや被災地の支援	
4	人材 個の尊重と働きがいを生む環境づくり	ダイバーシティ・インクルージョンの推進 働き方改革 人材育成 適正な評価・報酬	 
5	ガバナンス 100年企業をめざした経営基盤の確立	コーポレートガバナンス リスクマネジメント・コンプライアンス 個人情報保護と情報セキュリティ	

サステナビリティ推進の指針を説明する。

近年、SDGsに向けた取り組みは重要性を増し、企業は、サプライチェーンを含む範囲で、社会や環境に対する影響を自覚し責任を果たすと共にリードすることが求められている。今年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードでも、気候変動やダイバーシティなどのサステナビリティを巡る課題への取り組みが改定ポイントの一つとなっている。

当社でも企業活動における重要な要素と捉え、2020年4月にサステナビリティ推進の指針を定め、今年度は持続的成長を支える「ベース戦略」の一つに位置付けて、推進をしている。5つのテーマごとに長期的にありたい姿を定め、マテリアリティとして16項目定めている。

サプライチェーン：安心安全で透明性があり、環境に配慮した原材料・商品の調達、倫理的で責任ある労働環境を確保したサプライチェーンの構築をめざして6項目のマテリアリティを設定している。

資源：商品のライフサイクル全体に責任を持ち、事業活動を通して排出される廃棄物を削減しサーキュラーエコノミーへの貢献をめざして2項目のマテリアリティを設定している。

コミュニティ：地域との良好な関係を深め、生活文化の向上に貢献して、コミュニティの発展への寄与をめざして1項目のマテリアリティを設定している。

人材：従業員一人ひとりが働きがいを持って生産性を高めて、多様性を認め、個を尊重する組織風土と労働環境の構築をめざして4項目のマテリアリティを設定している。

ガバナンス：透明で公正な経営体制を築くとともに、迅速で果敢な意思決定を行う仕組みが充実した状態をめざして3項目のマテリアリティを設定している。

サステナビリティ委員会 討議テーマ一覧

委員長：代表取締役社長 メンバー：業務執行取締役、執行役員
オブザーバー：常勤社外取締役

月	テーマ	マテリアリティ
4月	サプライチェーン	<ul style="list-style-type: none"> ・商品調達のトレーサビリティ管理 ・サプライチェーンにおける人権と労働環境の尊重
	資源	<ul style="list-style-type: none"> ・事業活動による廃棄物の削減
5月	サプライチェーン	<ul style="list-style-type: none"> ・商品調達のトレーサビリティ管理 ・サプライチェーンにおける人権と労働環境の尊重
6月	資源	<ul style="list-style-type: none"> ・事業活動による廃棄物の削減
8月	1Q 進捗ふりかえり	
9月	人材	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティ・インクルージョンの推進
10月	サプライチェーン	<ul style="list-style-type: none"> ・商品調達のトレーサビリティ管理 ・サプライチェーンにおける人権と労働環境の尊重
	資源	<ul style="list-style-type: none"> ・事業活動による廃棄物の削減

5

サステナビリティ推進体制の柱として2020年4月に発足したサステナビリティ委員会について説明する。

サステナビリティ委員会は、代表取締役 社長執行役員を委員長に、業務執行取締役と執行役員を構成メンバーとし、オブザーバーに常勤社外取締役を迎えて、定期開催し、サステナビリティ戦略に関する方針、取り組み等の審議、進捗レビュー等を行っている。

今期の討議テーマは表の通りで、サプライチェーンと資源のテーマを中心に進行している。討議結果のもと社内各部門が横断的に連携して関連活動を推進している。

2022年3月期 主な取組進捗およびトピックス

テーマ	進捗	今後の計画
サプライチェーン 責任ある商品調達と サプライチェーン構築	<ul style="list-style-type: none"> ・「商品調達取引先様向け行動指針」の検討・策定 ・国内・外国人技能実習生アンケート調査の実施 ・商品トレーサビリティ管理強化に着手 ・環境・動物配慮素材使用時のエビデンス確認フローの構築・開始 ・CO2削減目標のSBT認定に向けたエネルギー使用データ管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品調達取引先様向け行動指針「同意書」の取得 ・外国人技能実習生アンケート調査の定期実施と、確認範囲の拡大を検討 ・商品トレーサビリティ管理の拡大を進行
資源 廃棄物削減と 循環型モデルの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・販売期間終了商品・販売対象外商品における取組目標を策定 現中期末：リペア販売・リユース・リサイクル活用等により 廃棄量を極小化 次期中期末：当該商品量を50%に(2020年3月期比) ・リサイクルループ等の構築にむけた検討に着手 ・包装資材の適量利用推進・環境配慮素材への切替進行 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物削減に向けた具体施策を継続検討

6

今期の主な取組進捗およびトピックスを説明する。

サプライチェーン

- ・「商品調達取引先様向け行動指針」の検討・策定を行い、国内・外国人技能実習生の就労についてアンケート調査を実施している
- ・商品のトレーサビリティ管理強化に着手しはじめた
- ・環境配慮素材・動物配慮素材使用時のエビデンス確認フローを構築し、一部ブランドから運用を開始した
- ・低炭素の推進に向けては、CO2削減目標のSBT認定に向けて今年度のエネルギー使用データ管理を継続している

資源

- ・販売期間終了商品・販売対象外商品における取組目標を策定した。現在、販売期間終了商品・販売対象外商品の発生率は全調達商品の1%程度であるがそれを可能な限り減らしていく。現中期末：リペア販売・リユース・リサイクル活用等により廃棄量を極小化、次期中期末：当該商品量を2020年3月期比で半減したい、と考えている。
- ・上記目標に応じる形で、リサイクルループ等の構築にむけた検討に着手している
- ・包装資材については、従来からおこなっているお客様へお声かけによる適量利用の推進と、環境配慮素材への切替を進行している

2022年3月期 主な取組進捗およびトピックス

テーマ	進捗	今後の計画
人材 個の尊重と働きがいを生む環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画 更新 その中で定めた以下目標に向けた施策・取組の検討を開始 2026年度末までに 課長以上管理職に占める女性 30%以上 店長以上管理職に占める女性 40%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 具体施策を継続検討
ガバナンス 100年企業をめざした経営基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメント委員会およびコンプライアンス委員会を発足 個人情報保護管理・運用体制の再検討 	<ul style="list-style-type: none"> 両委員会を軸とした基盤確立を継続 情報セキュリティ管理運用体制を継続検討
その他トピックス	<ul style="list-style-type: none"> CCO(チーフクリエイティブオフィサー)を中心にサステナビリティ推進のコミュニケーションデザインを検討 ジャパンサステナブルファッションアライアンス 立ち上げに参画 	

7

人材

- 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を更新した
- その中で定めた目標に向けた、施策・取組の検討を開始した

ガバナンス

- リスクマネジメント委員会およびコンプライアンス委員会を発足し、管理・運用体制を強化
- 個人情報保護管理・運用体制の再検討をすすめている

その他トピックス

- CCO(チーフクリエイティブオフィサー)を中心に、企業ブランディングにつなげるコミュニケーション、サステナビリティ推進のより効果的なPRを検討している。社内の啓発も重要と捉えておりコンテンツ配信を開始した
- ジャパンサステナブルファッションアライアンスの立ち上げに参画している。「ファッションロスゼロ」と「カーボンニュートラル」を目標に、サステナブルなファッション産業への移行を推進することを目的に設立された、企業連携のプラットフォーム。当社はファッション小売企業の立場からお客様の視点やニーズを意識した議論を進め、ファッション産業とお客様が一体となったサステナブルファッションの促進に貢献するとともに、当社におけるサステナビリティのより一層の推進につなげたい考え。